

令和5年度 第2回鳥取県公共事業評価委員会 議事録

- 1 日時 【会議】令和5年9月7日(木) 8:30~17:00
- 2 場所 【現地調査】鳥取市福部町細川 塩見川
倉吉市小鴨~福山 倉吉関金道路
江府町佐川 江府道路
- 3 出席者 【委員】猪迫会長、南野委員、白石委員、川原委員、西村委員
岸田委員、村江委員
【説明者】河川課 渡辺係長
道路建設課 田中係長
西部総合事務所日野振興センター日野県土整備局
新宮道路整備課長
【事務局】澤会計管理者、横山工事検査課長ほか工事検査課職員

4 概要

(1) 開会・会議の成立

- ・10名中7名の委員の出席(過半数出席)により、令和5年度第2回公共事業評価委員会が成立する旨を事務局が報告。

(2) 議事録署名委員の指名等

- ・会長が、白石委員と西村委員を議事録署名委員に指名。

(3) 現地調査

【概要説明】

- 大規模特定河川事業(塩見川)
河川課渡辺係長が資料を用いて説明。
- 一般国道313号道路改築事業(倉吉関金道路)
道路建設課田中係長が資料を用いて説明。
- 一般国道181号道路改築事業(江府道路)
日野県土整備局新宮道路整備課長が資料を用いて説明。

【質疑応答】

- 大規模特定河川事業(塩見川)

※塩見橋付近にて

(会長)

J Aは移転するのか。

(事業担当課)

移転する。

(委員)

J Aの用地補償は済んでいるか。

(事業担当課)

済んでいる。

(委員)

塩見橋を架け替える際に、現況道路の幅員は広がるのか。

(事業担当課)

新たに歩道を設置する計画としており、幅員は広がる予定である。

(委員)

地元の方々は福部駅に向かう際に塩見橋を使用しているのか。また、工事中は通行可能か。

(事業担当課)

福部駅へのアクセスには塩見橋を使用している。工事中は使用できなくなるため、迂回路(仮設橋)を設置することで、アクセスに支障が出ないように計画している。

(委員)

テープでマーキングを行っている高さが整備後の高さということだが、越水に耐えられる高さがその高さまでということか。こんなに水位が上がるものなのか。

(事業担当課)

橋については、30年に1度程度(以下、「1/30」と表記。)の確率降雨を安全に流すことのできる高さで整備する予定であり、マーキングもその位置に行っている。

最終的には、全区間において、1/30を目標として堤防整備を進めていくが、今回の補助事業期間では、橋以外は3年に1度程度(以下、「1/3」と表記。)の確率降雨を安全に流すことのできる整備(暫定整備)を計画している。

(委員)

J R (福部駅) も敷地を嵩上げする予定はあるのか。

(事業担当課)

橋の架け替えにより、福部駅に向かって道路を摺りつけていく必要があるため、一部 JR 敷地の嵩上げについても調整が必要となってくる予定である。

(会長)

この補助事業では、結果的に橋だけが 1/30 確率降雨を安全に流すことのできる断面になるという認識でよいか。

(事業担当課)

そのとおり。1/3 と 1/30 の違いは盛土 (築堤) をするかしないかであり、橋以外の部分においては、河道掘削を行うことで川の幅だけが 1/30 見合いとなる。将来的に築堤することで、1/30 確率降雨も安全に流すことのできる断面になる。

なお、橋の架け替えは費用が多くかかるため、手戻りがないように完成形である 1/30 見合いで整備しておくものである。

(会長)

最終的には 1/30、暫定的に 1/3 という認識でよいか。

(事業担当課)

その認識でよい。

(委員)

迂回路 (仮設道路) の設置費用も、事業費に含まれているのか。

(事業担当課)

含まれている。

(委員)

既存の河川は最終的に埋める予定ということで、生物への影響が懸念されると思うが、環境調査等を行っているのか。

(事業担当課)

全体的な計画（河川整備計画）を策定した際に、環境調査を行っており、重要種や希少種は確認されていなかったと記憶している。

（委員）

現況の塩見川は、川幅が広いところや狭いところがあるが、整備予定区間はすべて同じ川幅になるのか。

（事業担当課）

整備区間の一番下流の川幅が箭溪川放水路との合流点まで続くようなかたちとなる。現地にカラーコーンを2本立てているが、その区間が整備後のおおよその川幅であり、現況の2倍程度の広さとなる。

（会長）

現地にマーキングしている川幅は、底部の幅か。

（事業担当課）

堤防天端の川側の肩から肩までの区間である。

（会長）

整備後も、平常時に流れる水の幅はあまり変わらないという理解でよいか。

（事業担当課）

当該箇所は、海の潮位の影響があるため、川幅が広がっても平常時の水位は今と変わらない。

（委員）

この工事は今から令和13年までかけて、1/3を目標とした暫定整備を行うとのことだが、整備事業中に大雨で越水することもあると考える。工事現場で、資材等が流される心配はないのか。

（事業担当課）

大雨による越水の可能性はあるため、対策を行いながら事業を実施していく。

（会長）

今回、予算が激増する理由は、場所を変えて盛土を造ることになったからということだったと思うがその認識でよいか。

(事業担当課)

事業費の増の理由は、盛土ではなく、別の事業(交付金事業)で行う予定であった地盤改良を、工事の手戻りがないように先行して実施するため、今回補助事業の方に入れ込んだことによるものである。

(会長)

工事期間が2年間伸びているのは、地盤改良を補助事業に入れ込んだことによるものなのか、現在の進捗が遅れたために見直したことによるものなのか。

(事業担当課)

地盤改良を補助事業に追加した結果、整備期間がトータルとして2年間延伸となったものである。

当初は、補助事業が完了した後に、別の事業(交付金事業)で地盤改良を行う予定であったが、手戻りが生じることが判明したため、前倒しを行い補助事業の中で行うように変更した。

(会長)

地盤改良を行った後に盛土を行うのが通常の工事手順であり、当初から盛土と地盤改良はどちらも行う予定だったはずと考える。この事業が終わってから地盤改良を行うという部分があまり理解できない

(事業担当課)

当初の計画では、この事業は河道掘削が主で、盛土や地盤改良は行わない予定であった。なお、盛土については、今回も補助事業の中には入っていない。

(会長)

整理すると、もともとこの事業は河道掘削が主だったが、今回盛土のための地盤改良もメニューとして組み込まれて、盛土自体は当初予定どおり別事業(交付金事業)で行うものということではいか。

(事業担当課)

そのとおり。

(委員)

資料中の完成整備のところに盛土と記載があるが、それは誤りか。

(事業担当課)

盛土については、(この補助事業の事業期間である)令和13年度よりもさらに将来の形を現したものである。

(委員)

今回の補助事業は暫定整備というところまでということか。

(事業担当課)

そのとおり。

(会長)

盛土まで完成するのは、いつ頃の予定か。

(事業担当課)

本事業後、10年くらいかけて築堤盛土を行っていく予定である。

(委員)

地盤改良を行うことによる農業用水への影響はないのか。

(事業担当課)

地盤改良する前は事前に試験を行い、有害なものが発生しないか調査をした上で工事を行う。

※雨が降り始めたため、バスのなかで質疑応答を再開

(会長)

福部駅に向かう暫定道路を生活道路として使用すると聞いたが、10年くらい暫定道路のままなのか。

(事業担当課)

塩見橋の架替工事中は、生活道路として使用する仮設道路(仮橋)を別で用意する。塩見橋が架け終えた段階で、仮設道路は撤去する。

(委員)

塩見橋を架け替えてから盛土をするのか。

(事業担当課)

既設道路との摺りつけの関係もあるため、塩見橋付近においては先に盛土を行う。

(委員)

先に橋の部分だけを(完成形で)整備して、そのあとに上下流を盛土していくという施工手順は一般的なのか。

(事業担当課)

このようなやり方(手順)は結構ある。

橋を架け替えた際に生活に支障がでないよう、周辺道路との摺りつけはしっかりやっていく。

※箭溪放水路事業予定地にて

(会長)

正面に見えている橋と箭溪川放水路が合流してくる位置の位置関係を教えてほしい。

(事業担当課)

橋より下流側に放水路が合流する計画である。

(会長)

J Rと箭溪川放水路の間にある橋(ポンプ場管理橋)への影響はないという認識でよいか。

(事業担当課)

J Rまで河道掘削を行う予定であるが、当該管理橋は新河道の予定地より外に位置しているため、影響はないものと考えている。

(委員)

放水路について、図面上では横向き(箭溪川と直角方向)に整備される予定になっているが、水がきちんと流れるように設計されているのか。

(事業担当課)

箭溪川のほうが塩見川よりも高い位置にあるため、水がきちんと流れる勾配となっている。

(委員)

前回会議で法面上部に張芝を施工する計画と聞いたが、外来種が侵入しないよう考えられているのか。

(事業担当課)

県の方針としてできる限り在来種を使用することとしており、通知なども出して配慮しているところである。本事業箇所についても同様に対応していく。

○一般国道313号道路改築事業（倉吉関金道路）

※倉吉小鴨 IC 周辺にて

(委員)

倉吉関金道路が県道の下を通ることになるが、大雨の時に通行止めとなることはないのか。

(事業担当課)

県道の下を通るが、さらに低いところに排水を計画しているため、倉吉関金道路が冠水することはない。

(会長)

県道のバイパスの整備状況は、今回再評価の対象事業とは別事業か。

(事業担当課)

今回再評価を受けている倉吉関金道路とは別事業で県道バイパスを整備中。倉吉関金道路の開通までには開通予定。

(会長)

遺跡調査により工事が遅れた場所はどこか。

(事業担当課)

遺跡調査を実施したのは倉吉南 IC～倉吉西 IC の間で小鴨のあたりなど数箇所が確認されている。

(会長)

倉吉南 IC のアクセスはどのような形になるのか。

(事業担当課)

倉吉南 IC は国道313号現道と平面交差点で接続する形となる。将来的にⅡ期区間を整備

する際、ランプを設置してインターチェンジの形で接続する。

(委員)

なぜ、ランプをこのたび工事せずに将来的に整備するのか。

(事業担当課)

Ⅱ期区間の整備には長い期間がかかるため、その間の走行性を考慮し、ひとまずは国道313号現道に直接接続させる計画としている。

(会長)

順次供用していくということか。

(事業担当課)

その通り。

※石塚高架橋付近にて

(委員)

盛土構造と橋梁構造で費用に違いはでるのか。

(事業担当課)

盛土構造の方が経済的となる。橋梁構造の方が費用も期間もかかる。

(委員)

耐用年数についてはどうか。

(事業担当課)

橋梁構造ではコンクリート部分は100年程度と言われている。盛土構造は補修しながら供用していくこととなる。

(委員)

橋からの排水処理が地面に掘った穴に接続されているがよいか。

(事業担当課)

現在は工事中のため、仮の処理となっている。最終的には既存の水路に接続させる。

(委員)

法面に大量に草が生えているが、いずれ除草するのか。法面から外来種の種が田に飛ぶなど近隣の農地から意見が出ることはないか。

(事業担当課)

盛土がむき出しであると土が流れてしまうため植生で保護している。近接する側道から田に草が覆いかぶさるような場合は農家から意見をもらうこともあるので、定期的に草を刈るなど対応している。

(委員)

橋げたを支えているところはゴムか。それも耐用年数は100年程度か。

(事業担当課)

ゴム支承である。耐用年数は100年はないので途中で交換が必要となる。

(委員)

支承は地震の揺れを軽減させるためのものか。

(事業担当課)

そのような機能もある。

(委員)

橋梁が5箇所あるが、元々の計画として橋梁は5箇所あったのか。

(事業担当課)

元々は道路が交差するところは、橋梁やボックス構造を計画していた。しかし、地元調整や埋蔵文化財調査の結果から橋梁区間が伸びて5箇所の長い橋梁となった。

(委員)

Ⅱ期区間も隣接しているが、こちらでも高架橋となる可能性があるか。

(事業担当課)

Ⅱ期区間についても、現在交差するところは橋梁でそれ以外は盛土構造を計画している。しかし、地元調整や埋蔵文化財調査の結果によっては、橋梁区間が伸びる可能性はある。

(会長)

盛土の幅が取れない所はコンクリートブロック積にしているということか。

(事業担当課)

道路計画と田の区画への影響を考慮してブロック積にしている区間がある。

(会長)

すぐそばまで農地が来ているが、盛土だけで構築できた区間はあるのか。

(事業担当課)

元々農地だったところを買収して道路を整備している。田の区画への影響によって盛土とする区間と、隣の区画に影響しないようにブロック積にするなどの調整が必要であったと思われる。

(委員)

パンフレットはどのような場合に作成し、どのような所に配布するのか。

(事業担当課)

大規模な道路を整備する際は、現場見学に来る地元の方や学生が多いため、道路の目的や構造がわかりやすいようパンフレットを作成することが多い。

(委員)

地元の学生を受け入れる現場の体制は整っているのか。

(事業担当課)

実際に昨日、現場に高校生を受け入れて、ICT 施工についての説明を行い、建設業界の PR を行った。

(委員)

素晴らしいと思う。

(事業担当課)

毎年、付近の2つの小学校から小学生を受け入れ、橋にチョークでお絵描きをしたり、埋蔵文化財調査で発見された土器を紹介するなど PR に努めている。

(会長)

今回の評価とは関係ないが、大鳥居から先、湯原に向けての計画はどうなっているか。

(事業担当課)

県境部分は犬狹峠道路の整備が終わっている。大鳥居から犬狹峠道路までの間の約2km弱はまだ事業化していないが、将来的には整備する計画はある。

(会長)

Ⅱ期区間の終点、大鳥居から接続する県道の橋は狭くないか。

(事業担当課)

元の関金の役場の前を通る橋で2車線有る橋です。

(会長)

新しくできた橋ですね。わかりました。

※倉吉南IC付近にて

(会長)

Ⅱ期区間は、基本的には盛土で整備されるのか。

(事業担当課)

道路が交差するところは橋梁やボックス構造となるが、基本は盛土構造となる。

(会長)

一般道とは直接リンクさせないように盛土構造となるのか。

(事業担当課)

その通り。インターチェンジからしか出入りができない道路となる。

(会長)

風よけのようなものがあるが、これは工事中のものか。

(事業担当課)

風よけではなく目隠しの役割を果たすもの。左手に集落があるため、道路から見えにくくするため設置したものである。

(会長)

このフェンスは完成したものか。

(事業担当課)

その通り。

(委員)

盛土が場所によって土の色が違うのはなぜか。

(事業担当課)

色々な現場から土を持ってきているため。

○一般国道181号道路改築事業（江府道路）

※トンネル坑口にて

(委員)

水がトンネル内に浸み込まないようにシートを張るとなっているが、本来地面に保水される水が変な所に溜まるなど支障となることはないか。

(事業担当課)

トンネル内に水が湧き出ないようにシートを張る。シートの裏側を通して落ちる水は、トンネル舗装下に設置する排水管へ集めてトンネル坑外へ排水する計画となっている。

(会長)

資料では令和4年4月から掘削開始となっているが、令和3年からという説明があった。この違いは何か。

(事業担当課)

令和3年10月に工事契約をしたもの。ヤード整備やプラント設置等の準備期間を経た後、実際に掘削を始めたのが令和4年4月である。

(会長)

令和8年度末には掘削のみではなく、付随する他の工事も終わるということか。

(事業担当課)

令和8年度末は掘削工事の工程であり、令和8年度から9年度末にかけてトンネルの舗装や水路工事を予定している。

工程表はあくまで工事契約の工程。準備期間や後片付けを含む期間であり、令和8年度末

に工事契約が完了する。

(会長)

掘削自体はいつ終わる予定か。

(事業担当課)

まだ正確には掴めていないが、令和7年度のうちに掘削を完了し、その後、覆工コンクリートを進めていく予定である。

(会長)

今後の地質の状況により掘削に時間を要し工程が延びる可能性はあるということか。

(事業担当課)

現時点までの掘削でここまで延びている状況を勘案し、今後も同じような状況が続くことを想定した工程としている。この工程以上にこれから極端にすべて悪いというような状況になればさらに延びる可能性がないとは断言はできないが、今まで進めてきた900m間の状況と同じような状況が続いた場合にここまで延びると想定している。

(委員)

岩質が悪く進むのが遅れているとのことだが、やってみないとわからないのか。

(事業担当課)

地質調査によりある程度、岩の硬さや状況を把握して設計しているが、掘削中に水がかなり出てきていることや、岩片自体は固いが間に粘土を挟んでいて水を含むと崩れてしまう状況である。平成31年4月に完成した隣接する宮ノ谷トンネルは、約23か月の工事期間で発注したが順調に進み、当初想定よりも約4か月早めに完成した。岩質も悪くなく工事費の増額もなかったため、久連トンネルも同じような状況を想定していたが思いのほか悪かったという状況。

(委員)

(説明場所隅のあたりで) 出ている水は何か。

(事業担当課)

トンネル内で湧き出ている水と工事で発生した濁水等を一度汲み上げて対岸の濁水処理設備に送っている。

(委員)

そのまま川に流しているわけではないのか。

(事業担当課)

そのまま流しているわけではなく、対岸までパイプで渡して濁水処理設備で処理をした綺麗な水だけを川へ流している。

(会長)

濁水処理は凝集沈殿か。

(事業担当課)

その通り。

(委員)

トンネル坑口上部の山は綺麗に間伐されて整備されているようだが、発破掘削の影響で山の環境が変わり、木に影響することはないか。

(事業担当課)

坑口部分で山の地表とトンネルとのかぶりが薄いところは、発破掘削ではなく機械で掘削している。発破掘削は、ある程度奥に掘り進んで、かぶりが厚くなってきたあたりから行っている所以影響はないと思われる。

※トンネル内にて

(委員)

片側1車線の2車線道路だが中央帯はどうなるか。

(事業担当課)

歩行者通行禁止の規制はかかるが、高速道路ではなく一般道路となるため、区画線のみの標示となる。

(委員)

最後の覆工コンクリートの厚さは何cmくらいになるか。

(事業担当課)

基本30cmとなっている。

(委員)

場所によって厚さが変わるのか。

(事業担当課)

覆工コンクリートの厚さは基本一定である。掘削時に吹き付けているコンクリートの厚さは場所によって違う。地質が悪いところは厚くなり、良いところは薄い。

令和5年9月7日

会 長 猪 迫 耕 二

署名委員 白 石 秀 寿

署名委員 西 村 裕 美